

令和8年度「健やかな体」育成プログラム

学校番号：24019

学校名：川北小学校

	令和7年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査 結果		分析
体力・運動能力 <男子>	○前回の記録を同程度もしくは上回った種目 反復横とび、20m シャトルラン、50m 走、 立ち幅とび、ソフトボール投げ	○前回の記録より下回った種目 握力、上体起こし、長座体前屈	運動に対し肯定的に捉え親しみ前向きに取り組む児童が多い。仲間との運動や遊びも、日頃の運動習慣が形成されている一因である。俊敏性と投てき力の高まりが見られた。
体力・運動能力 <女子>	○前回の記録を同程度もしくは上回った種目 上体起こし、反復横とび、20m シャトルラン、 立ち幅跳び、ソフトボール投げ	○前回の記録より下回った種目 握力、長座体前屈、50m 走	運動に対してできるようになりたいと感じている。自己に合う運動、その運動のコツを知ることで技能を高めたいと願う児童が多い。俊敏性と投てき力の高まりが見られた。
運動・スポーツへの意識、 運動習慣	○「運動やスポーツをすることが好き」と回答する児童の割合 R6 男子:95.4%、女子:89.8% R7 男子:96.8%、女子:88.3% (R7全国平均 男子:93.4%、女子:85.8%)	○体育の授業を除く1週間の総運動時間が60分未満の「ほとんど運動しない」児童の割合 R6 男子:1.6%、女子:8.2% R7 男子:9.9%、女子:7.8% (R7全国平均 男子:9.8%、女子:17.3%)	児童は運動やスポーツがもたらす効果を理解し肯定的に捉え日常から取り組んでいる。連続・持続する動きの技能獲得の場を校内で保障し、「できた」「楽しい」と感じられる取組を継続していきたい。

三つの取組	①体育・保健体育等の 授業の充実	②授業以外で子どもの 運動機会を創出する取組	③子どもが自ら 健康の保持増進を図る取組
-------	---------------------	---------------------------	-------------------------

具体的な取組	<p>○運動の楽しさに触れられる「課題探究的な学習」の推進 児童自らが「やってみたい」と課題を見出し、自己の能力に合う運動の場や取組方を選択できる学習を推進する。</p> <p>○体育科授業実践の工夫と改善 運動領域や各学年の既習の積み上がりを意識した学習展開を行う。運動時間の確保、児童数に見合う用具を保障し、どの子にも運動することの心地よさを感じられる学習展開を全職員で推進する。</p> <p>○ICTを活用した学習活動の充実 動画等から自己の伸びや課題を捉え、意欲と目標が連続する学習展開を行う。</p> <p>○行事との連携、活用（運動会等） 運動会ブロック表現の継続、全校なわとびウォームアップに取り組む。</p>	<p>○運動機会の充実を図る環境整備の推進 体育館壁面に走・跳遊びができる「川北すぽちゃれ」、多目的室に「フットホッケー」や「モルック」など常設設置し遊びの幅を広げている。クラブ活動では新たに「一輪車」を導入し、子どもたちが自ら遊びを選び、浸る環境を整備していく。</p> <p>○三間（仲間、時間、空間）の創出による運動機会の充実 晴天時は外遊びを推奨。学年・学級遊びを実施。毎月7・8日を「なわデー」、月末の検定を「なわチャレ」と定め、全学年教職員で好きな縄跳び運動に浸り、持久力向上を図る。全校縦割り活動「なかよしタイム」でも、「なかよしなわデー」を実施し、異学年で楽しく跳ぶ活動を行う。</p> <p>○子どもによる運動機会を創出する取組 委員会児童の立案による児童集会等を通年でを行い、仲間とふれあう楽しさや心地よさを育む。</p>	<p>○「みんなく」の実施 学期ごとに実施。養護教諭を中心に、児童の睡眠時間や生活態度について見直す機会を設ける。良質な睡眠をとる大切さを指導し、家庭との連携を図り実践する。</p> <p>○食に関する指導の充実 栄養教諭と連携し学年の実態に応じ、食事のマナーや自分に合った栄養の摂り方等を学ぶ機会を設ける。</p> <p>○ゲストティーチャー（GT）の活用 GT（アスリート先生、助産師等）を招き専門性の高い学びの場や講話の機会を設ける。</p> <p>○「こころの健康」についての啓発 豊かな心育成部、情報部と連携し、情報機器端末と上手に付き合い、適度・適切な使用について呼びかける。児童自らが「こころの健康」を考えていける啓発を適宜行っていく。</p>
---------------	---	---	---

家庭・地域との連携・協働

- ・総合的な学習の時間や、保健体育など学習単元に特化したゲストティーチャーを招き、実技指導及び出前授業の実施を行う。
- ・スキー学習で外部インストラクターの活用、保護者ボランティアを募り、どの子も安全かつ確実な技能習得を目指す冬季スポーツ指導を行う。
- ・札幌市「プロスポネット」に所属するプロチームから選手、OBOG選手、スタッフ等を招き、健康についての実態を踏まえた指導の充実を図る。